

資料

新着資料の紹介

資料室

1) Т. Н. Спичарский (1973): 「Обзорные тектонические карты СССР (ソ連構造地質図総観)」, ネードラ出版所レニングラード支部, レニングラード, 240p., 図17, 表2, 文献249, 27×18 cm (露文), UDC: 551.24

目次

- 第1章 構造地質図の概念
- 第2章 既出版の総観構造地質図についての概説
- 第3章 構造区区分法
- 第4章 構造発達史に関する認識
- 第5章 構造地質図編纂法
 - 構造地質区細分類方法上の諸問題
 - 構造地質区細分の一般概念
 - 構造地質区細分の空間的および地史的属性 当該地域とその構造発達史を組み立てる基本的地殻構造認識法としての構造解析
 - 構造地質区の細分
 - 構造地質条件 (地向斜地殻の条件, 大陸地殻の条件) 広域構造地質区の細分 (地向斜地殻の地域, 大陸地殻の地域, 海洋地殻の地域) 構造地質区の地質時代細分
 - 深在断層
- 第6章 構造地質区と鉱床生成区
 - 鉱床分布の構造地質的規則性
 - 鉱床分布の地質時代的規則性
- 第7章 不均等-定向発展——地殻形成の基本的規則性
- 第8章 構造地質区区分表現法と記号構成法

2) 全ソ地質科学研究所 (ВСЕГЕИ) (1972): 「Геология северо-восточной Азии (東北アジアの地質)」, 全4巻, ネードラ出版所レニングラード支部, レニングラード, 27×18 cm (露文), UDC: 55

目次

第1巻 (187p., 図32, 表8, 文献433)

- 第1—4巻序文 (П. И. Красный)
- 緒言 (Г. С. Ганешин, Ю. Ф. Чемяков)
- 第1章 地形の特徴 (Г. С. Ганешин)
 - 大陸の地形 (山岳と高原 平野と台地 海岸) 太平洋および北氷洋隣接部の沿海部海底地形 (太平洋沿海 ラブテフ海 東シベリア海 チュコトク海)
- 第2章 ネオテクトニクスと地形 (Ю. Ф. Чемяков)
 - 東北区 極東 ザバイカル 北中国平原・東中国平原と周辺山地 朝鮮半島
 - 千島・カムチャツカ (コリャーク高原 カムチャツカ半島 千島列島) サハリン
 - 日本列島 アラスカ 垂直運動の強さ 水平運動の問題 基本総括
- 第3章 削剝平坦化面の問題 (Ю. Ф. Чемяков)
 - 東北区 極東 ザバイカル ゴビ砂漠・大興安嶺・東満山地 朝鮮半島 千島

・カムチャツカ サハリン 日本列島 アラスカ 基本総括

第4章 河川網発達の規則性 (Г. С. Ганешин)
 地質・構造地質と河川網の相関関係 河川網発達における火山現象の意義 古河川網の特
 徴 河川争奪の役割 総括

第5章 第四紀氷河作用の問題 (Ю. Ф. Чемяков)
 東北区 極東 千島・カムチャツカ サハリン ザバイカル 朝鮮半島
 大興安嶺・東満山地・黄河流域・揚子江流域 日本列島 北アメリカ 古氷河作用の
 雪線 氷河期の絶対地質年代 氷河期はメタクロンかシンクロンか? 氷河作用と海
 進の関係

第6章 地形発達史 (Ю. П. Баранова ほか)
 鮮新世後期—第四紀前期 第四紀前期 (プリバイカルとザバイカル 東北区 極東 東
 満山地・大興安嶺・同隣接平原 カムチャツカ サハリン 千島列島 日本列島 アラ
 スカ) 第四紀中期 (プリバイカルとザバイカル 東北区 極東 大興安嶺・東満山地
 ・同隣接平原 カムチャツカ・千島列島・サハリン 日本列島 アラスカ) 第四紀後
 期 (プリバイカルとザバイカル 東北区 極東 大興安嶺・東満山地・同隣接平原 カム
 チャツカ・千島列島・サハリン 日本列島 アラスカ) 完新世
 結び (Г. С. Ганешин, Ю. Ф. Чемяков)

第2巻 (527P., 図154, 表7, 文献396)

第2巻序言

第1章 下部先カンブリア系 (В. Н. Мошкин 編)

ハンカイ山塊 プレヤ山塊 オリョクマ-ビチム褶曲区 アルダン-スタノボイ地域
(アルダン褶曲区 スタノボイ褶曲区) ベルホヤン-チュコトカ褶曲区 (オホーツク山塊
オモロン山塊とタイゴノス山塊 コルイマ山塊 チュコトカ山塊) 中国-朝鮮褶曲区
日本列島 アラスカ まとめ

第2章 上部原生界 (А. П. Глушков 編)

南部地方 (ジジノ-ケルレン堆積盆 アムール堆積盆 中国-朝鮮堆積盆) 北西地方 (東
シベリア堆積盆) 北東地方 (東北堆積盆とアラスカ堆積盆) 東部地方 (東アジア堆積
盆)

第3章 カンブリア系 (А. П. Гушков 編)

南部地方 北西地方 北東地方 東部地方

第4章 オルドビス系 (А. П. Гушков 編)

南部地方 北西地方 北東地方

第5章 シルル系 (В. А. Амантов 編)

南部地方 (南モンゴル堆積盆 バルガ堆積盆 ギラ堆積盆) 北東地方 (コルイマ堆積盆
ベルホヤン堆積盆 ブルクソフ堆積盆とユーコン堆積盆) 東部地方 (南アラスカ堆積盆
コリヤーク堆積盆 日本堆積盆) まとめ

第6章 デボン系 (В. А. Амантов 編)

南部地方 (興安堆積盆 スンガリー堆積盆 ザバイカル堆積盆とシャンタル堆積盆) 北
東地方 (ベルホヤン堆積盆 オムレフ堆積盆・コルイマ=ブルクソフ堆積盆・ユーコン堆積盆)
東部地方 (コリヤーク堆積盆と南アラスカ堆積盆 日本堆積盆) まとめ

第7章 石炭系 (В. К. Елисева)

南部地方 (ザバイカル=ゼヤ堆積盆 シャンタル=ツグール堆積盆 大興安嶺堆積盆)
北東地方 (ベルホヤン堆積盆 コルイマ堆積盆 チュコトク堆積盆 ブルクソフ堆積盆)
東部地方 (シホテアリン堆積盆 日本堆積盆 コリヤーク堆積盆 南アラスカ堆積盆)
まとめ

第8章 二畳系 (B. K. Елисеев 編)

南部地方 (ザバイカル堆積盆 大興安嶺堆積盆) 北東地方 東部地方 まとめ

第9章 三畳系 (T. M. Окунева 編)

南部地方 北西地方 北東地方 (ヤナ=コルイマ堆積盆 アニユイ=チュコトク堆積盆
コルビル堆積盆) 東部地方 (シホテアリン堆積盆 プレヤ堆積盆 ウツキー堆積盆
日本堆積盆 ヤンツィ堆積盆 南アラスカ堆積盆) まとめ

第10章 ジュラ系 (И. И. Сей 編)

南部地方 北西地方 北東地方 (ヤナ=コルイマ堆積盆 北アラスカ堆積盆) 東
部地方 (日本=サハリン堆積盆 シホテアリン堆積盆 ウツキー=プレヤ堆積盆 コリヤ
ーク堆積盆 南アラスカ堆積盆) まとめ

第11章 白亜系 (B. H. Верещагин 編)

東アジア大陸成堆積区 (南部 中部 北部) 沿太平洋海洋成堆積区 (シホテアリン堆積
盆 日本=サハリン堆積盆 カムチャツカ=コリヤーク堆積盆 アニユイ=チュコトク堆積
盆 オホーツク堆積盆 アラスカ堆積盆) まとめ

第12章 古第三系 (B. A. Сальников 編)

東アジア大陸成堆積区 (モンゴル地域 アムール=沿海州地域 ボハイ地域 ヤナ=コルイ
マ地域) 沿太平洋堆積区 (北ベーリング堆積盆 南ベーリング堆積盆 南アラスカ堆積
盆 西カムチャツカ堆積盆 西サハリン堆積盆 南オホーツク堆積盆 東中国堆積盆
海洋堆積盆) まとめ

第13章 新第三系 (E. A. Сальников 編)

東アジア大陸成堆積区 (モンゴル=ザバイカル地域 東ゴビ地域 アムール=沿海州地域
ボハイ地域 レナ地域 ヤナ=コルイマ地域 アラスカ地域) 沿太平洋堆積区 (東中
国堆積盆 日本堆積盆 オホーツク堆積盆 ベーリング堆積盆 南アラスカ堆積盆)
まとめ

第14章 第四系 (B. B. Соловьев 編)

東アジア堆積区 (極東 大興安嶺地域とスガリー河流域 東北区) 沿太平洋堆積区 (サ
ハリン カムチャツカ 千島列島 コリヤーク山脈 日本列島 アラスカ)

第15章 太平洋西北部縁海の底質 (Д. Е. Гершанович)

堆積作用の要素と底質の主なタイプ 底質概説 まとめ

ソ連東部および同隣接地方の時代別古地理図集

第3巻 (395 p., 図68, 表59, 文献206)

第3巻序言

第1章 太平洋可動帯に隣接する古期褶曲区および山塊のマグマ作用

スタノボイ褶曲区 (始生代 原生代 古生代後期 中生代) セレンガ=ヤプロノイ褶
曲区 (原生代後期地向斜古期基盤隆起部 地向斜期 転位期 活化期) コルイマ山塊
・オモロン山塊・オホーツク山塊 (先カンブリア紀 古生代 古生代後期-中生代 新生
代) アルゲン山塊 (ジュラ紀マグマ作用 白亜紀マグマ作用) プレヤ山塊 (概説
原生代前期 古生代前期 古生代後期 中生代後期) ハンカイ山塊 (原生代前期
古生代前期 古生代後期と中生代) 太平洋可動帯に隣接する古期褶曲区と山塊の一般的特
徴

第2章 太平洋可動帯外帯各地域のマグマ作用

ヤナ=コルイマ褶曲系 (先古生代後期マグマ作用 地向斜期 [二畳紀-ジュラ紀中期] 転位
期 [ジュラ紀後期-白亜紀前期] 圧密期 [白亜紀後期] 活化期 [新生代]) チュコト
ク褶曲系 (先古生代後期マグマ作用 地向斜期 [二畳紀-ジュラ紀中期] 転位期 [ジュラ紀
後期-白亜紀] 後転位期 [古第三紀-第四紀]) モンゴル=オホーツク褶曲区 (概説)

地向斜期の古生代中期火山作用 モンゴル=ザバイカル域〔西部 東部〕 アムール=オホーツク域) シホテ=アリン褶曲系(地向斜期と転位期〔古生代中期火山作用と古生代後期火山作用 古生代後期貫入マグマ作用 ジュラ紀貫入マグマ作用〕 三疊紀-白亜紀地向斜期・転位期〔三疊紀とジュラ紀の火山作用 白亜紀前期火山作用 白亜期前期貫入マグマ作用 前期白亜紀前期火山作用 セノン期貫入マグマ作用〕 圧密期〔ダン期-古第三紀〕〔前期白亜紀後期-古第三紀火山作用 ダン期-古第三紀前期貫入マグマ作用 古第三紀前期火山作用 古第三紀後期火山作用 古第三紀後期貫入マグマ作用 中新世火山作用 第四紀火山作用〕 太平洋可動帯外帯マグマ作用の一般的特徴

第3章 東アジア火山源帯

概説 東シホテアリン火山源帯 内陸火山源帯 オホーツク=チュコトカ火山源帯 東アジア火山源帯の一般的特徴

第4章 東太平洋可動帯内帯各地域のマグマ作用

日本褶曲区のサハリン地域(地向斜期 地向斜後期と転位期 後転位期) オホーツク=コリヤーク褶曲区(コリヤーク=アナドゥル域 西カムチャツカ域) 千島=東カムチャツカ褶曲系(白亜紀後期噴出生成体 古第三紀-新第三紀噴出生成体 白亜紀後期-古第三紀貫入生成体 古第三紀-新第三紀貫入生成体) 千島=カムチャツカ火山源帯 太平洋可動帯内帯マグマ作用の一般的特徴

第5章 隣接諸外国のアジア東部岩石区におけるソ連東部マグマ岩区

第6章 太平洋可動帯北西部マグマ作用の一般的特徴

第4巻 (324p., 図46, 表25, 文献318)

序言

第1章 地質発達史

プロトゲイ

始生代

原生代前期

アルダン=スタノボイ地体ブロック ヤナ=チュコトク地体ブロック

原生代中期

アルダン=スタノボイ地体ブロックと中国=朝鮮地体ブロック ヤナ=チュコトク地体ブロック

プロトゲイ概括

メソゲイ

アルダン=スタノボイおよび中国=朝鮮地体ブロック アムール地体ブロック

メソゲイ概括

ネオゲイ

古生代前期

原生代後期-古生代前期地質発達史総論

中国=朝鮮地体ブロック ヤナ=チュコトク地体ブロック

シベリア卓状地東縁の地塊構造

アムール地体ブロック 先カンブリア紀-古生代前期の構造形態 先カンブリア紀と古生代前期のリソジェネシスの特徴 先カンブリア紀・古生代前期マグマ作用の特徴

古生代前期概括

古生代中期

地質発達史概論

ヤナ=チュコトク地体ブロック アムール地体ブロック 日本地体ブロック

西および北部沿太平洋の仮説的正地向斜帯 古生代中期リソジェネシスの特徴 古

生代中期マグマ作用の特徴

古生代中期概括

古生代後期

地質発達史概論

中国=朝鮮地体ブロック アルダン=スタノボイ地体ブロック アムール地体ブ
ック 日本地体ブロック ヤナ=チュコトク地体ブロック 西および北部沿太
平洋の仮説的正地向斜帯 古生代後期リソジェネシスの特徴 古生代後期マグマ作
用の特徴

古生代後期概括

中生代

地質発達史概論

アルダン=スタノボイ地体ブロックとセレンガ=ヤプロノイ地域 ヤナ=チュコトク地
体ブロック アムール地体ブロック 日本地体ブロック 西および北部沿太
平洋の仮説的正地向斜帯 東アジア大陸縁部火山源帯と内陸火山帯 中生代リソジェ
ネシスの特徴 中生代マグマ作用の特徴 大陸セグモイド 中間セグモイド

中生代概括

新生代

地質発達史概論

アムール地体ブロック 中国=朝鮮地体ブロック ヤナ=コルイマ地体ブロック
東アジア大陸縁部火山源帯 中間セグモイド 日本地体ブロック オホーツク
地体ブロック オホーツク=コリヤーク可動系 千島=東カムチャツカ地向斜系
西および北部沿太平洋の仮説的正地向斜系 新生代リソジェネシスの特徴 新生代
マグマ作用の特徴 大陸セグモイド 中間セグモイド

新生代概括

第2章 堆積作用の進化とリソジェネシスの2, 3の問題 (フォーメーション解析にもとづいて)

堆積区とその堆積相-生成機構上の特徴

北東部 南部 東部

第3章 堆積速度の解析による堆積成構造の力学的問題

卓状地 沿クラトン凹地 前陸盆地 山塊と同周縁凹地 可動区

第4章 メタロジェニーの一般的規則性

主要鉱床生成期

リーフェイ=カンブリア紀メタロジェニー 古生代中・後期メタロジェニー 中生
代メタロジェニー 新生代メタロジェニー

空間における鉱化作用の配列

超広域メタロジェニック累帯配列 広域および内広域メタロジェニック累帯配列

ソ連東部に接する太平洋帯の鉱床生成区

ソ連太平洋縁帯諸鉱床探査のメタロジェニー上の前提

大鉱床生成区の地球化学的特徴

メタロジェニーの進化の一般的規則性

第5章 石炭生成の規則性

古生代後期

中生代

新生代

第6章 石油・天然ガス分布の規則性

原生代後期-古生代前期

| | | | | | |
|-----|-------------------------|-------|-------|-----|-----|
| | 原生代後期—古生代前期 | 古生代中期 | 古生代後期 | 中生代 | 新生代 |
| 第7章 | 結論と理論的諸問題 | | | | |
| | 地史的規則性 | | | | |
| | 地体ブロックの分割 | | | | |
| | リソジェネシスの2, 3の規則性 | | | | |
| | 地体構造の発達と関連したメタロジェニックな進化 | | | | |
| | 太平洋可動帯と太平洋 | | | | |

3) Г. Т. Волостных (1972): 「Аргиллизация и оруденение (粘土化作用と鉱化作用)」, Нео-Дра出版所, Москва, 240 p., 図81, 表22, 文献173, 22×16 cm (露文), UDC: 553.24

目次

| | |
|-----|--------------------------------|
| 第1章 | 粘土化岩研究史 |
| | 「粘土化作用 (argillization)」の内容 |
| | 岩石の熱水性粘土化変質に関する概念の発展 |
| 第2章 | 岩石の粘土化現象の地質学的条件 |
| | 地向斜撓下期の熱水性粘土化交代作用 |
| | 主褶曲相末期マグマ作用と関係する岩石の粘土化 |
| | 底盤状貫入作用と関係する鉱床母岩の粘土化 |
| | 主褶曲相末期斑岩質貫入作用と関係する岩石の粘土化 |
| | 可動帯構造運動末期噴出・貫入マグマ作用と関係する岩石の粘土化 |
| | 卓状地地域層状鉱床母岩の粘土化 |
| | 自立活化地域鉱床母岩の粘土化 |
| | 岩石の粘土化作用の進行深度 |
| | 粘土化岩形成の温度領域 |
| | 粘土化岩形成範囲の形態と規模 |
| | 粘土化岩の絶対年代 |
| 第3章 | 粘土化岩の組成 |
| | 粘土鉱物に関する認識 |
| | 粘土鉱物の仮像 |
| | 岩石の粘土化変質作用によって生じた鉱物 |
| | 原岩の組成と粘土化生成物の鉱物組成との相関関係 |
| | 粘土化岩の物理的性質 |
| | 粘土化岩の研究法 |
| 第4章 | 粘土化岩の鉱石胚胎性と累帯構造 |
| | 貫入岩中の鉱床 |
| | 斑岩銅鉱床における岩石の粘土化 |
| | 中温性モリブデン鉱床の粘土化岩 |
| | 中温性多金属鉱床の粘土化岩 |
| | タングステン鉱床の粘土化岩 |
| | 中-低温性ウラン鉱床の粘土化岩 |
| | オレクマ上流地域の粘土化岩 |
| | オノン地区の粘土化岩 |
| | 貫入岩中の水銀鉱床の粘土化岩 |
| | 噴出岩中の鉱床 |
| | 中-低温浅成多金属鉱床・金銀鉱床の粘土化岩 |

- 浅成ウラン鉱床の粘土化岩
 - 非金属鉱床 (螢石, 石英, 重晶石, 天青石) の粘土化岩
 - 堆積岩中の鉱床
 - コロラド高原層状ウラン鉱床の側岩の変質
 - ソ連の層状ウラン鉱床における側岩の粘土化
 - 遠熱水性層状鉛-亜鉛鉱床母岩の粘土化
 - 第5章 粘土化岩の組成と累帯構造の形成条件
 - 粘土鉱物の合成と安定領域
 - 鉱物と岩石の分解
 - 熱水溶液の組成
 - 粘土化岩の累帯構造の形成作用
 - 第6章 熱水交代岩中での粘土化岩の位置
 - 岩石の変質に先行する粘土化作用
 - 岩石の変質に伴なう粘土化作用
 - 鉱体周縁熱水交代岩中での粘土化岩の位置
 - 第7章 鉱体探査指標としての粘土化岩
 - 鉱床賦存地域と不毛地域の粘土化岩の比較
 - 粘土化岩分帯の構成
 - 岩石の鉱床随伴変質作用の強度と当該鉱床胚胎性との相関関係
 - 垂直方向の鉱床胚胎性指標の安定度
 - 第8章 熱水-粘土化岩と風化生成物との相違
 - 粘土化範囲と風化断面
 - 粘土生成物の鉱物組成
 - 粘土生成物の累帯配列
 - 随伴鉱物の分布
 - 粘土化作用と風化作用による物質の移動
 - 粘土化岩と風化生成体の物理的性質
 - 粘土化岩の表成変質
 - 帯状風化殻について
 - 第9章 有用資源としての粘土化岩
 - カオリンと耐火粘土の熱水-交代鉱床
 - ベントナイトとモンモリロナイト粘土の熱水-交代鉱床
- まとめ

4) アゼルバイジャン共和国科学アカデミー編 (1973): 「Очерки по геологии Азербайджана (アゼルバイジャン共和国地質総論)」; 「エルム」出版所, バクター, 228p., 26×17 cm (露文), UDC:55

目次

第1部 火山作用と構造作用

Ш. А. Азизбеков, М. И. Рустамов: ザンゲズール地方南部の一般構造中におけるメグリ=オールドバード底盤体の位置 (図3, 文献10)p. 7-15

М. А. Кашкай, В. И. Алиев: 小カフカス地方の火山-プルトン岩系とその内因性鉱床との成因的關係 (表1, 文献26)p. 16-30

第2部 造山帯

А. В. Мамедов: クラ凹地の構造地質の問題によせて (図4, 文献17)p. 33-44

К. А. Исмайллов, И. С. Гасанов: カスピ海南部盆地鮮新-更新統褶曲構造面の2, 3の特徴 (図

| | |
|--|-----------------|
| 3, 文献7) | ……………p. 45-53 |
| 第3部 応用地球物理学的研究の諸結果 | |
| P. H. Абдуллаев, O. Д. Багирбекова: アゼルバイジャン共和国の花崗岩類の絶対地質年代 (表1, 文献4) | ……………p. 57-62 |
| C. A. Мамедов, Л. E. Шолпо, Т. А. Исмаилзаде, К. Д. Гасанова: 小カフカス地方北東部ジュラ系の古磁気学的研究 (図4, 表1, 文献2) | ……………p. 63-67 |
| 第4部 地球化学 | |
| A. A. Ализаде, П. А. Шойхет: 南カスピ海凹地底質の地球化学と石油炭化水素生成作用の問題 (図7, 表3, 文献18) | ……………p. 71-87 |
| C. Г. Салаев, Э. И. Зейналова, Д. И. Эфендиев: カフカス地方南東部古第三系 - 中新統の炭化水素ガスの地球化学的特徴 (図5, 表3, 文献5) | ……………p. 88-95 |
| Ф. Г. Дадашев: 地殻中における炭化水素ガスの化学組成形成作用について (文献19) | ……………p. 96-102 |
| 第5部 内因性鉱床 | |
| A. Д. Керимов: アゼルバイジャン共和国における鉛 - 亜鉛鉱床の分布規則性 (文献9) | ……………p. 105-111 |
| Г. И. Керимов, А. Б. Ширалиев: ベジュナリンスク鉱床の鉱化段階 (図5, 表2, 文献5) | ……………p. 112-120 |
| Р. Ш. Азизбеков: メグリ=オールドバード底盤体の岩脈と鉱床の関係 (図4, 文献23) | ……………p. 121-127 |
| 第6部 堆積岩の成因と分類 | |
| A. Д. Султанов, Н. В. Пашалы: 地球化学的資料に照したアゼルバイジャン共和国後鮮新統形成問題によせて (図10, 文献9) | ……………p. 131-147 |
| A. Г. Сеидов, Д. Д. Котельников: 前カフカス地方およびアゼルバイジャン共和国のマイコープ層の粘土鉱物 (図2, 文献44) | ……………p. 148-158 |
| B. П. Акаева: 小カフカス地方北東部白亜系上部階火砕堆積岩の成因的特徴について | ……………p. 159-166 |
| 第7部 土木地質 | |
| Д. М. Сулейманов: アゼルバイジャン共和国範囲の土木地質区分 (図1, 表1, 文7) | ……………p. 169-175 |
| 第8部 その他 | |
| A. A. Якубов: アゼルバイジャン共和国の泥火山の形態的・成因的分类 (図7, 表1, 文献14) | ……………p. 179-193 |
| Ш. Ф. Мехтиеv, Ю. Б. Гинис: ヒラー褶曲体の地下水の水理地質と水理化学 (図4, 表3) | ……………p. 194-203 |
| K. A. Ализаде, Т. А. Мамедов: アゼルバイジャン共和国内の地質発達状況と関係した古第三系 - 新第三系海棲化石動物群の発展段階性 (文献11) | ……………p. 204-210 |
| A. Г. Халилов: ジュラ紀と白亜紀の境界とベリアス期の層位学的位置について (図1, 表1, 文献8) | ……………p. 211-217 |
| Д. М. Халилов, Л. Д. Мамедова: 有孔虫化石動物群によるアゼルバイジャン共和国の古第三系の累帯区分 (表1) | ……………p. 218-226 |